

平成16年10月25日より社名が変わりました。

デザインの意味

ロゴ

グリーン：環境、エコロジーをイメージ

マーク

<全体のイメージ>

・フタムラの英頭文字「F」をデザイン化

・躍動感をイメージ

<色の持つ意味>

・ブルー 誠実、高品質

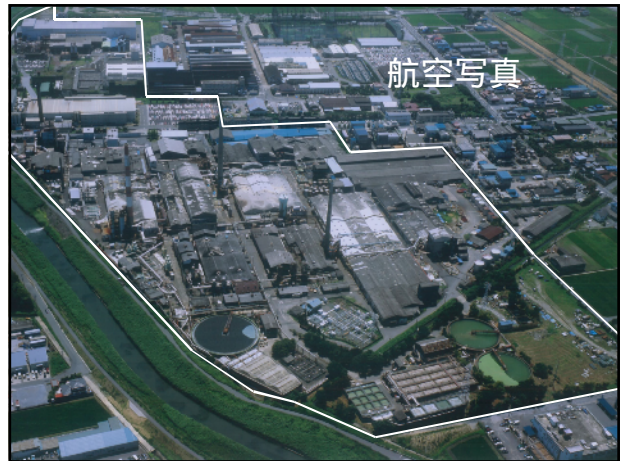
・グリーン 環境、エコロジー

・レッド 創造、熱意



フタムラ化学株式会社

航空写真



工場配置図



大垣工場の製品紹介

製品	用途
ゼロハン	ゼロハンテープ、ガム外包装 館のビニ包装、医薬品包装材料
ファイラスケーシング(VK)	ラム、ソーセージの包装材料
不織布(TCF)	ウエットティッシュ、フェイシャルペーパー ガーゼ、おしぼり
OPPフィルム	パン・スナック菓子・ラーメン・アイスクリーム 野菜等の食品包装、粘着テープ
PETフィルム	アルパム

環境に対する基本的な考え

私たちフタムラ化学は、創業以来半世紀にわたり、常に高品質・高機能な製品群を世に送り出し、社会に貢献してきました。

そこには弛まぬ研究開発への努力と高度な技術力、「顧客第一主義」という企業姿勢が大きく貢献しているものと自負しております。

そして新世紀を迎え、あらためて「人に、町に、地球にやさしいテクノロジー」をキーワードとし、エコロジカルな生産体制・商品開発力の強化に取り組んでいます。

フタムラ化学は、人々の豊かな暮らし、より良い街づくりを支える環境派メーカーを目指し、これからも消費者・社会・時代のニーズを的確に捉え、「やさしさ」を持った製品づくりに邁進していきたいと考えています。

環境重視メ-カ- フタムラ化学へ

私たちフタムラ化学がメ-カ-である以上、大量の水・電気の使用者であるとともに、工程中に様々な廃棄物等を生み出していることは否めません。

フタムラ化学では、その事実を深く認識し、古くから環境保護を念頭とした、多様な対策に着手してきました。

また近年、地球規模で環境保護の必要性が叫ばれているのを受けて、より高度なレベルでの対策を進めています。

そして製造工程だけでなく、製品自体にもエコの意識を取り入れようと、素材・リサイクル性などの研究にも余念がありません。

「自然との共存の中から、より”やさしさ”を持った製品が生まれる」。これがメーカーフタムラ化学として21世紀の指針であり、次世代のために果たすべき責任だと考えます。

品質・安全・環境に関する行動指針

(平成13年(2001年)制定)

- 基本方針
当社は「安全な品質で、安心して使用されるものを、安定的に」を基本に、製品造りを通じて社会に貢献する。
「品質・安全・環境」は企業の持つ重要な使命として行動指針を定め真摯に取り組み、
- 行動指針
(1)法規、協定、契約の遵守を最優先し、必要ある時は法規以上の自主管理をする。
(2)トラブルは起こり得るものとして、未然に防ぐために、それぞれ責任ある対応をする。
(3)常に、創意工夫と技術の向上に努め、継続的改善を図る。
(4)製品の製造・使用・廃棄のライフサイクルにおける品質・安全・環境への配慮に努める。
(5)品質保証への取り組みとして「ISO9001」の更なる定着化と有効活用を図る。
(6)安全への取り組みとして全社的に労働安全衛生、防災活動を展開し、各人の意識高揚を図り、「ゼロ災害」で職場の安全確保を目指す。(7)
環境への取り組みとして「ISO14001」の認証取得により継続的環境改善を推進する。

環境目標と実績総括

大垣工場は、環境活動推進のため、個々の「環境目標」を設定し、目標達成の施策を計画・実施しております。

平成15年度目標と中長期目標の達成度合い(実績評価)

実績評価：A-目標達成、B-積極的取組みずるも目標未達成、C-取組み不十分

項目	中長期環境目標	平成15年度目標	平成15年度実績	評価
1. 省エネ対策	製品当たりエネルギー・使用量を平成13年度対比毎年1%削減	製品当たりエネルギー・使用量を前年比1%削減	製品当たりエネルギー・使用量を前年比9%削減(総使用量は前年比3%削減)	A
2. 温室効果ガス削減	CO ₂ 排出量を平成13年度比平成20年に5%削減 フロンガス使用の冷凍機を順次燃焼ノンフロン化	-	前年度比2%削減(13年度比では3%増加)	B
3. 汚染防止	環境苦情 0件	環境苦情 0件	環境苦情 0件	A
	規制値逸脱事故 0件	規制値逸脱事故 0件	規制値逸脱事故 2件 窒素・リン連続測定器設置 5次規制値クリア	C
		水質第5次規制対応		A

環境目標と実績総括 その2

項目	中長期環境目標	平成15年度目標	平成15年度実績	評価
4. 化学物質管理	二酸化炭素排出量の計画的な削減 平成18年度で平成12年度比30%以下	二酸化炭素回収量を1,218t 以上	二酸化炭素回収量1,178t、排出量2,384t 平成12年度比6.7%	B
5. 水資源管理	排水量 13.5百万m ³ 以下 排水量 7.3百万m ³ 以下	排水量 13.5百万m ³ 以下 排水量 9.1百万m ³ 以下	排水量 13.5百万m ³ 排水量 9.4百万m ³	A B
6. 廃棄物管理	平成20年度には廃棄物リサイクル率97%以上確保 マニフェスト回収率 100%	汚泥の委託処分量を1,000t以下に削減	リサイクル率 94% 汚泥の委託処分量約1,400t 回収率 100%	B A
7. 社会的責任	積極的な社会活動に参画	-	-	C
	遊休地の積極緑化	-	-	C

事業活動のマテリアルバランス



環境会計

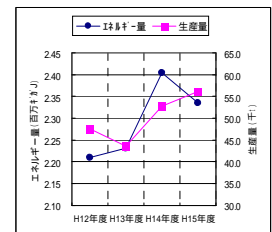
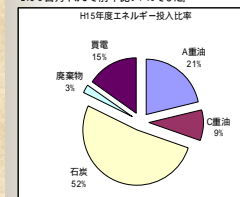
環境保全効果

項目	主な内容	単位	平成14年度	平成15年度	前年差
エネルギー	総エネルギー使用量	百万kWh	2.40	2.33	0.07
	CO ₂ 排出量	千t	175.2	171.3	3.9
大気	NO _x 排出量	t	276.4	271.4	5.0
	SO _x 排出量	t	449.9	437.0	12.9
	ダイオキシン類	排出量	mg-TEQ	20.4	24.3
水質	排水量	千m ³	14,219	13,513	706
	排水量	千m ³	9,397	9,378	19
	水質汚濁物質排出量(COD)	t	103.5	89.1	14.4
廃棄物	最終委託処分量	t	4,429	1,908	2,521

1. 省エネ対策

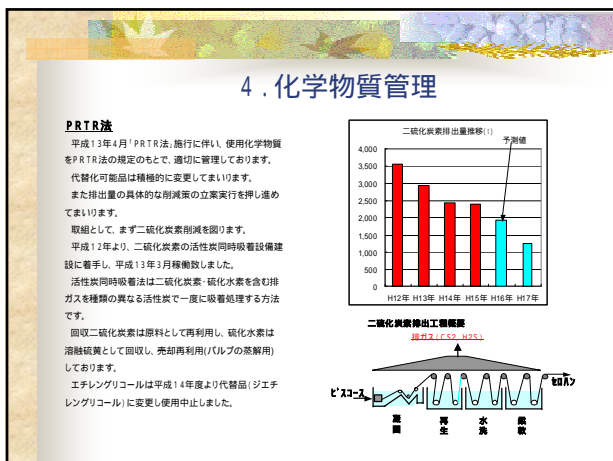
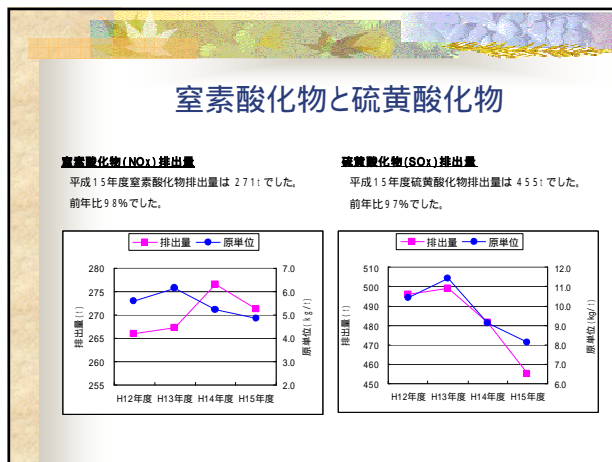
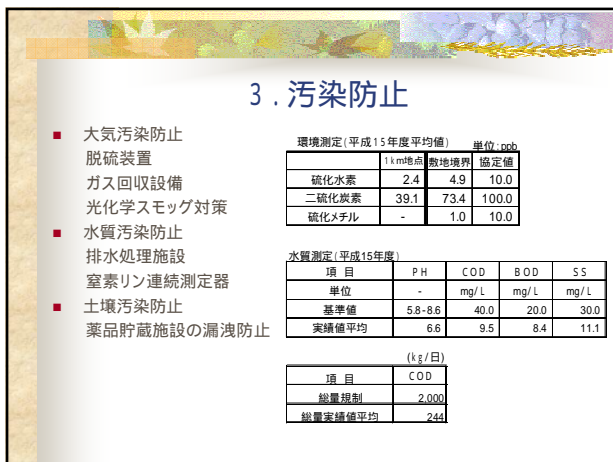
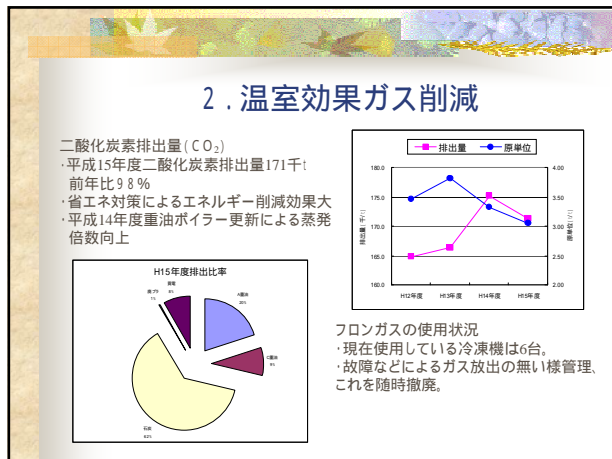
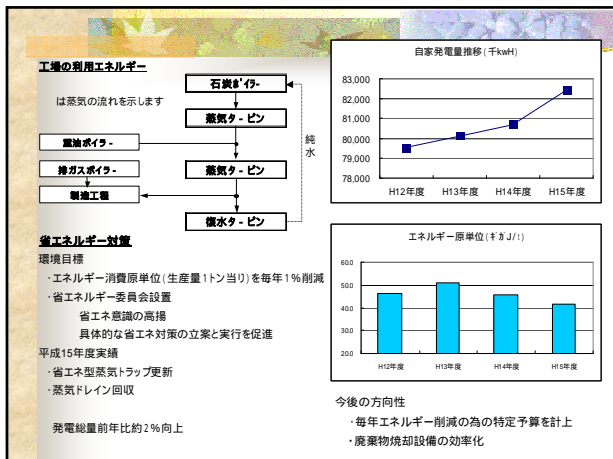
総エネルギー使用量

平成15年度総エネルギー使用量は、2.33百万kWhで前年比9.7%でした。



資源エネルギー庁の定める「エネルギー源別発熱量表(H13年3月改訂)」を参照致しました。

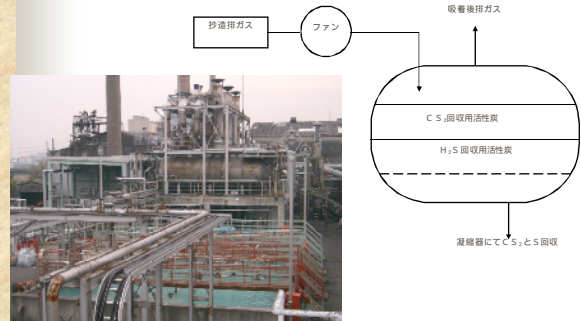
購入電力は9,830kWhを利用しました。



ガス回収設備とは？

- 平成13年3月稼働
- 二硫化炭素 CS_2 、硫化水素 H_2S を活性炭で吸着、 CS_2 は C_2S_2 として回収、 H_2S は硫黄 S として回収
- 回収した C_2S_2 は工場内でセロハン製造用に再利用
- 回収した硫黄 S は他社へ、タンクローリーで輸送し再利用
- 建設費約6億円、既存設備改造費約6億円、合計投資金額約12億円

ガス回収設備概要



バイオガス処理とは？

- 工場排ガス中の二硫化炭素 CS_2 と硫化水素 H_2S を微生物の餌として効率的に処理。
- 現状の湿式脱硫設備を更新し、バクテリアでガスを処理する。
- 日本で初めての設備。
- 建設費：約8億円。
- 平成17年4月末完成予定。

バイオガス処理装置(海外)

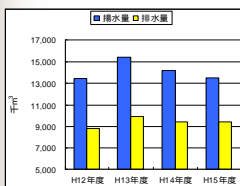


5. 水資源管理

排水量と再利用水

排水量は前年度比 9.5%でした。

	排水量 千 m^3	再利用 千 m^3	合計 千 m^3	再利用率 %
H13年度	15,426	2,450	17,876	13.7
H14年度	14,219	3,549	17,768	20.0
H15年度	13,513	3,741	17,254	21.7



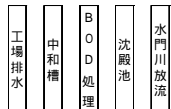
排水量

各工程より排出される排水は中和後活性汚泥処理(BOD処理)設備で処理の後一級河川水門川へ放流しております。

	排水量 千 m^3
H13年度	9,887
H14年度	9,397
H15年度	9,378

排水削減目標値を、2.5千 m^3 /日(9.1百万 m^3 /年)以下にしています。

前年度比は減少しましたが、目標未達成でした。



水資源管理 その2



今後の方向

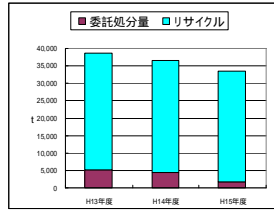
排水量から排水量の差を見ると、約30%が有効利用ができていないといえます。

平成16年度は主に、加工工程のコンデンサの冷却水の再利用の推進をし、排水・排水量の削減を行ないました。

6. 廃棄物管理

廃棄物の分別徹底により、最終委託処分量の削減を図ります。
平成15年度は汚泥の減量化を推進し、総発生量が年間3千トン削減できました。

- 廃棄物管理への取組み
 - 発生量の削減
 - マテリアルリサイクル
 - サーマルリサイクル

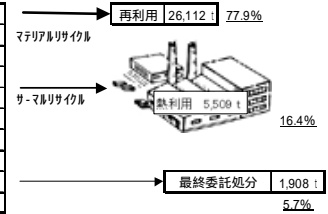


平成15年度屑・廃棄物処理実績

総リサイクル率は94.3%でした。

廃棄物総発生量 33,529 t

種類	割合
製品屑	6.9%
セルロース屑	6.8%
汚泥	13.8%
廃プラ	0.1%
木屑	0.1%
石灰灰	23.1%
廃硫酸	45.8%
鉄屑	0.6%
その他	1.6%
燃え殻	1.2%



7. 社会的責任 コミュニケーション

環境展示会への出展

環境コミュニケーション活動の場として、大垣市主催の市民環境フェスティバルに出展致しました。
環境に優しい製品(色セロハン、油こし不織布)紹介をし、来場の皆様サンプルの提供をしました。



社会貢献活動

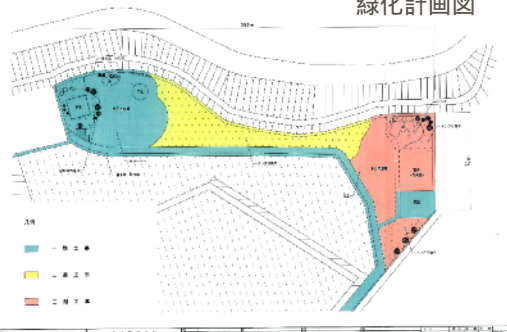
毎年(社団法人、岐阜県西濃建設業協会主催の)、西濃河川クリーン作戦に参加しております。
また工場に隣接する水門川堤防の清掃活動も自主的に実施しており、今後は大垣市とも協力して清掃活動に参加してまいります。
これからは従業員が積極的にボランティア活動に参加できるよう努力いたします。
また以前から大垣工業高校生、大垣商業高校生のインターシップを受入れており、少しでも課外授業の手助けになればと考えており、今後も継続してまいります。

外測池緑地化計画

- 工場南東の遊休地の緑化事業を計画
- 10年計画で第1期工事を実施しており、緑化事業に取り組んでおります。
- 第1期工事を平成16年度より着手いたしました。



緑化計画図



環境マネジメント活動の推進

大垣工場は平成13年5月、ISO14001認証取得
(認証取得機関: J C Q A)

ISO14001 環境方針

生産に関連する活動において省資源・省エネの推進、廃棄物の削減など環境保全の向上に努めると共に、環境に配慮した製品の提供に努める。
生産に関連する活動において、継続的な環境改善と汚染の未然防止
生産に関連する活動において、環境に関連する法規制、条例、及びその他の要求事項を遵守する。
環境目的及び目標を定め、年に一度見直しを行うことにより環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
この環境方針を全従業員に周知させる。
本方針の開示を一般の人から要求された場合は公開する。

平成15年度目的・目標達成状況

項目	達成状況
省エネルギーの推進	
産業廃棄物の削減	
著しい環境側面の軽減	

省エネルギーの推進
生産量R当りの電気使用量は前年実績比4.6%、同じく燃料使用量は7.4%削減できました。
産業廃棄物の削減
生産量R当りの汚泥発生量は26.2%削減することができました。
著しい環境側面の軽減
本年度は騒音苦情を捌けておりますが、前年の苦情2件を0件にすることができました。
*ISO14001の目標値・実績値は製品面積当りの表示です。